

深化する有機半導体結晶：量子解放の分子科学に向けて

*Frontier of Organic Semiconductor Crystals:
Toward the Molecular Science of Quantum Liberated Electrons*

概要

分子結晶では、バンド伝導、ドーピングによる伝導制御が実現され、ここ10年で大きく研究が進展した。デバイス、物性評価、合成、理論研究者を交え、有機半導体結晶の進むべき道を議論する。

日時：9/20（木）10:00～18:00

～招待講演～

平本昌宏（分子研）

量子解放電子—有機単結晶におけるキャリア生成と再結合



中村雅一（奈良先端大）

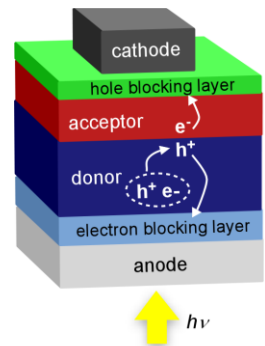
有機固体における巨大ゼーベック効果 ～量子解放のもう一方の極限～

竹延大志（名大）

高分子材料におけるコヒーレント伝導と新機能

解良聡（分子研）

分子性結晶の電子状態の特徴：局在性の変遷



吉田弘幸（千葉大）

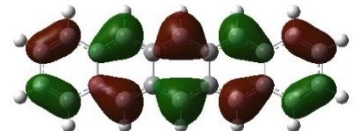
有機半導体の電子準位を決める要因

島田敏宏（北大）

フラックス蒸発法による大面積有機半導体単結晶成長と物性測定

岡本敏宏（東大）

新奇分子設計技術による有機半導体材料の開発



石井宏幸（筑波大）

第一原理に基づく有機半導体の電子伝導シミュレーション～ホッピング伝導からバンド伝導まで～

藤田貴敏（分子研）

高移動度有機半導体の励起状態の解析

一般講演も募集します。ぜひご投稿下さい。